

チュニジア革命と非暴力行動論¹⁾

三石 善吉*

Tunisian Revolution and Nonviolent Action

Zenkichi MITSUISHI *

Abstract

This essay explains three features of the 29days nonviolent revolution of Tunisia -its use of facebook, its nonviolent action, and Ben-Ali-regime's extreme corruption-

キーワード：チュニジア革命、フェイスブック、非暴力行動、ジーン・シャープ、ベン・アリー体制、モハメッド・ブアジジ、焼身自殺

1. はじめに

チュニジア29日間、エジプト18日間の革命は、非暴力行動を貫いた点、フェイスブックなどの新しい情報交流機器が大きな役割を果たした点、権威的体制下で支配の客体化に甘んじていた市民がこの革命を通じて支配の主体へと変身した点に特色がある。特に非暴力行動論は、米の政治学者 Gene Sharp [1928/1～]の“The Politics of Nonviolent Action”[1973]にまで遡り、シャープ学説は、冷戦終焉 [1989年]前後から一躍世界の注目を浴びる存在となり、2009年度にも、2011年度にもノーベル平和賞の候補に挙げられた。

「ノーベル平和賞は誰に」と言う問いには、まずは Paddy Power [paddypower.com/ アイルラン

ドの世界的な賭博請負業者 bookmaker]の odds[賭け率]を見ることでほぼ判明する。2011年9月23日の時点では、1位アフガニスタンの女性人権活動家 Sima Samar、2位ミャンマーの政治家 AungSan SuuKyi、3位ロシアの人権活動家グループ Memorial、4位ガリベリアの平和活動家 Leymah Gbowee [受賞]で、G. シャープはずっと下の22位であった。

ところが2011年10月7日、平和賞発表の直前では、1、2位は変わらず、3位に突如 Gene Sharp が入った。4位 Memorial、5位 リーマ・ボウイーである。この変動は、2011年9月27日ノルウェーのエグランド元外務副大臣やオスロの平和研究所の「今年のアラブの春になるだろう、我々の時代の決定的瞬間として、アラブの春に並ぶものはない」とい

* 学長、Tsukuba Gakuin University

1) 本稿は「2011年度秋季エクステンション特別講義」(10月15日)の「ジャスミン革命と独裁国家」を論文化したものである。

う発言に触発されて、G. シャープが一気に浮上したのである (olbg.com/07 Oct.2011)。しかし結果は「女性権利の向上」に貢献した、イエメンの民主活動家〔サレハ大統領の退陣を要求している〕タワックル・カルマン Tawakkul Karman (32歳)、アフリカ初の女性大統領エレン・サーリーフ Ellen Johnson Sirleaf リベリア共和国大統領 (72歳)、リベリアの平和運動家リーマ・ボウィー (39歳) の3人であった。

なお人口に膾炙している 'Jasmine Revolution' という言葉は、1987年11月ベン・アリー首相がブルギーバ大統領〔1903～2000〕を老齢〔この時84歳〕・健康上の理由で強制的に解任して軟禁〔死ぬまで13年間〕した時、つまり無血クーデターで大統領位を篡奪した時、ベン・アリーは、自らこれを国花に因んで 'Jasmine Revolution' と名づけた。そのような経緯を良く知っているチュニジア国民はこの言葉を嫌い、'Revolution of Tunisia' あるいは若者たちは特に、'Facebook Revolution' と呼ぶべきだとも言っている²⁾。

2. ベン・アリー独裁体制—腐敗の実態

アクトン卿〔1834～1902：英国の政治家・学者〕の著作 "Essays on Freedom and Power,"³⁾ には、友人であるクレイトン司教に宛てた手紙の一節に次の有名な言葉がある。

"Power tends to corrupt; absolute power corrupts absolutely. Great men are almost always bad men" (1887年4月5日付)

クリストファー・アレクサンダー〔Davidson College の政治学准教授〕は、2011年1月2日時点で、次のようにチュニジア政治の実態を分析している。1995年頃からベン・アリー独裁政

権は「恣意的な逮捕、印刷媒体とインターネット・アクセスへのコントロール (=規制)、ジャーナリスト・人権擁護団体・野党の活動家に対する身体的な攻撃と言った事はごく当然の事になった。さらに勿論、腐敗の物語である。腐敗といえば普通 'ピンはね' とか '情実主義' (kickbacks and favoritism) を考えるかも知れないけれどもそんな生易しいものではなく、掛け値なしのマフィア級の犯罪行為 *truly mafia grade criminality* で、ベン・アリー夫人と彼女の一族のポケットを充満させた」⁴⁾。

2. 1 マフィア国家

『シドニー・モーニング・ヘラルド』紙 (2011年1月19日)⁵⁾ によれば、ベン・アリー大統領夫人〔Leila Ben Ali, 旧姓 Trabelsi〕が逃亡前にチュニジア中央銀行から1・5トンの金塊〔約53億7千万円相当〕を持ち去ったという『ルモンド』紙の記事について、銀行側の責任者の、金塊は「持ち去られてはいない」との証言を紹介しつつ、大統領夫人とその一族の「腐敗の手口」を次のようにまとめている。

彼らの経済への支配力は巨大なもので、夫婦一族は、チュニジアの銀行、エアライン、車の販売、インターネットプロヴァイダー、ラジオ・テレビ局、工業、大手の小売業者から利益の分け前 *stake = grubstake* を得ていたと言う。同紙によれば、その手口は、
The former hairdresser was despised for corruption and excess. She and her 10 siblings are said to have operated like a mafia, extorting money from shop owners, demanding a stake in businesses large and small and divvying up plum concessions among themselves.

2) "Le Monde" 2011/01/17 'Jasmine Revolution': a term that is not unanimously.

3) "Essays on Freedom and Power" Boston, Beacon Press, 1945, p364.

4) 'Tunisia's protest wave: where it comes from and what it means' Jan 3, 2011, by Christopher Alexander, foreignpolicy.com. 同准教授には "Tunisia: Stability and Reform in the Modern Maghreb" の著書がある。

5) "The Sydney Morning Herald" Jan.19, 2011, 'Fleeing first lady said to have taken central bank gold' by Adrian Blomfield.

[訳：この元美容師は腐敗と豪奢で嫌悪されていた。彼女と彼女の10人の姉妹兄弟たちは、①事業主たちから金銭を強要する、②大口であろうと小口であろうと営業での利益の分け前を要求する、③利益の大きな利権を一族で分け合う、と言ったマフィアのような行為を行っていた]。

『BBC NEWS』(2011年1月31日)「ベン・アリーとトラベルシー族の蓄財の真相を突き止める」⁶⁾ は、その支配の実態をおよそ次のように明らかにしている。

すなわち、大統領一族 *extended family* は「恐怖と恐怖政治」で支配し、彼らに「住宅でも土地でも要求されたら、諦めなければならない」。「彼らは国家の権威的権力を振りかざして、巨大な[集金]ネットワークを作り上げた」。一族は、チュニジアの全経済の30%から40%を、しかも各業種の中核部分を大統領の専制権力を背景に「*a quasi-mafia*」[マフィアまがいの]に支配していたと言う。

『ニューヨーク・タイムズ』(2011年1月13日)も、2010年12月上旬にウィキリークスが流したチュニジア米大使の‘*Corruption in Tunisia: What’s Yours is mine*’ という報告書を掲載し、大統領夫妻の婚姻を通じた「拡大家族 *extended family*」はチュニジアの多数の最有力企業から「過分の分配金 *major stakes*」を得ていたとある。この一族は権力をかさに恐怖をもって「お前のものは俺のもの *What’s Yours is mine*」とばかりに、自分がほしい物は何でも国民から奪った、と報道された。

2. 2 警察国家

日本や欧米の民主主義国家は、これまでリビアのカダフィー大佐 (在任41年)、ヨルダン

のアブドラ国王 (在任12年)、イエメンのサーレハ大統領 (在任20年)、エジプトのムバラク大統領 (在任29年)、シリアのアサド大統領 (在任11年)、アルジェリアのブーテフリカ大統領 (在任11年) などの権威主義国家 (独裁国家・警察国家) を、国内の「イスラム過激派=テロリスト」を厳しく取り締まっていることで、「テロ取り締まり国家」として高く評価し、その統治の実態、つまり長期政権に伴う権力の極端な腐敗、国民の自由への途方もない抑圧などには完全に目をつぶり、これらの国々を支援してきた。

駐チュニジア・アメリカ大使は、2009年7月17日、本国に送った外交文書でベン・アリー政権を「警察国家」と呼んでいたことを、「ウィキリークス」を介して『*ガーディアン*』紙が2010年12月7日に暴露した⁷⁾。以下は大使の報告書の当該部分である。

Despite Tunisia's economic and social progress, its record on political freedom is poor. Tunisia is a police state, with little freedom of expression or association, and serious human rights problems [訳：チュニジアは経済的・社会的発展にもかかわらず、政治的自由に関するチュニジアの記録はお粗末です。チュニジアは警察国家であり、表現の自由や結社の自由はほとんどなく、重大な人権侵害問題もあります]。

ところで、チュニジアの治安を現場で取り締まる組織を、国内外のほとんどすべてのマスメディアは「治安部隊」「*security forces*」と呼んでいる。「治安部隊」とはいったい何か。チュニジア発のニュースを見ていると「治安部隊」とデモ隊が衝突して警察官二人が負傷したとか、治安部隊とデモとの衝突で、警

6) “BBC NEWS” 31 Jan 2011, ‘Tracking down the Ben Ali and Trabelsi fortune’

7) guardian.co.uk, (Tue. 7 Dec.2010). US embassy cables: Tunisia - a US foreign policy conundrum. なお次の資料も参照：This is the Wikileaks that sparked the Tunisian crisis. By Gregory White, Jan. 14, 2011.business insider.com. 内容の要約説明である。

察官に発砲を禁じたと言う報道が頻出している。結局「治安部隊」とは、警察の部隊であることがわかる。

チュニジアには、内務大臣管轄下に警察のほか、沿岸警備隊と国家警察隊とがあり、「治安部隊」とは、普通の警察の部隊と、この国家警察隊〔装備を高めた日本の機動隊のごときか〕を指すものと思われる。棍棒、催涙ガス teargas、放水 water cannon そして実弾の水平撃ちも許可していた。

2. 3 情報監視統制国家

インターネット情報の流れは、「コード」をどのように設計するか、また通信を運ぶハード面の管理主体の管理思想はどのようなものか、と言う二点の違いによって、その性格を大きく変える。有名な例を挙げよう⁸⁾。

「シカゴ大学は、コンピューターを大学の至る所にあるジャックに接続するだけで完全なインターネット接続が得られ、匿名で自由・無料のアクセスが確保されるのに対して、ハーバード大学では事前に大学側に登録したコンピューターのみしか接続が許可されず、登録後は、ネットワークとのあらゆるやり取りがモニターされ、匿名の発言は認められていない。－両者の相違は、言論の自由を重視し、アクセスの支援を理想とするシカゴ大学と、アクセスのコントロールを理想とするハーバード大学という、各ネットワーク管理者の異なる価値観に基づいた決定によって生じて (61頁)」いる。

このようなネットワークの性質の違いは、一つは、「コードのデザイン」の違いにある。「コードのデザイン」による情報のコントロールは、「技術的に可能」であるばかりか、「コントロールの度合いを自在に調整することができる」し、かつ「設計者、管理者が望みさ

えすれば、コントロールの効いたネットワークを作り上げることはそれほど困難なことではない (63頁)」。こうしてほぼ自在に、管理者 (国家) による、情報の制限 restriction・検閲 censorship・モニタリング monitoring が可能となる (65頁)。

もう一つは、ハード面でのインターネット情報統制である。この場合、インフラの物理的構造物である電気通信事業が国営であるか否か、及びその国家が民主主義的国家であるか否か、によって異なってくる。アラブ諸国の場合、今日ではまだインターネットへの接続は電話線を介して行われるのがほとんど〔下記山本氏の著書の出版は2008年 4月:三石〕である。ところでこの固定電話市場は国有であり、独占権を与えられている。固定電話サービスを提供する企業は、誰が (どの電話番号から)、どの ISP [Internet Service Provider. インターネットへの接続を提供する組織=電気通信事業者] に接続している (接続したか) のかに関する情報を簡単に記録にとどめることが可能である (77頁以下)。

こういった制限などを行うには、「一般に、プロキシサーバー (proxy server) と呼ばれる装置を導入することで実現されている。プロキシサーバーとは、インターネット上のデータのやり取りを代理して行う機能を持っているソフトウェア」であり、「この機能を利用することでネットワークに出入りするアクセスを一元管理し、内部から特定の種類のみを許可したり、外部からの不正なアクセスを遮断したりすることが可能となる (66頁)」。「アラブ諸国の非民主主義体制が試みているのは、同様の措置を公的な領域である国家レベルにまで拡大し、国民に対してコントロールの実現を図ろうとするものであると捉えることができる (67頁)」。

8) 山本達也『アラブ諸国における情報統制』慶応義塾大学出版会2008年。以下全てカッコ内の数字は同書のもの。

ベン・アリー独裁体制〔1987年11月7日大統領に就任〕下のチュニジアの「情報コミュニケーション」の状況は、「オープンネット・イニシアティヴ OpenNet Initiative (ONI)」の調査（2009年8月7日）によれば、概略次のようである。

まずその政治機構の面では、トップに情報大臣 Ministry of Communications が居り、その下の「チュニジア・インターネット庁 Tunisian Internet Agency ATI」が、国家のインターネット・サービスやドメインネーム・システム・サービスを規制している。チュニジアに11ある「インターネット・サービス・プロヴァイダー ISPs」のうち、6つが国営、5つが民営であるが、全て ATI からバンド幅を借り lease しており、情報は全て ATI を通過することになる。

チュニジアではウェブ・フィルタリング〔以下濾過〕にマカフィー McAfee の「スマート・フィルター Smart Filter」⁹⁾ を使っており、全ての固定ラインのインターネットは ATI のコントロールするこの設備を通過するので、政府は絶えず11の ISPs を通過する全ての情報内容を記憶装置に入れたり、濾過したりする事が出来る。Smart Filter は、「403“Forbidden” エラー・メッセージ」を表示するよう設計されているから、あるユーザーがブロックされたサイトにアクセスしたとき、普通の「404 “File Not Found” エラー・メッセージ」に、何の説明もなく普通に置き代えてしまうので、現実はそのサイトがブロックされているのか分かり難いようになっている。チュニジア政府の情報コントロールの対象は、政治的敵対者に関しては、徹底的な濾過が行われ、またブロックの対象は、敵対する者、ジャーナリスト、人権主義者、ユーチューブ、ONI

の各ウェブサイト、およびポルノ、ゲイ、レスビアン等である。

3. 青年の焼身自殺－原因と反政府運動拡大。

3. 1 自殺の原因

モハメド・ブアジジ Mohamed Bouazizi〔1984年3月29日～2011年1月4日〕、シディブジド市〔人口約4万人〕の生まれ¹⁰⁾。父〔リビアで建設業労働者〕は3歳のとき病没。再婚した母と義父〔病弱で毎日働けなかった〕と6人の子供たちの全8人家族。ブアジジは家族を養うために10歳のときから様々な仕事をやって一家の生計を助けていた。ブアジジは軍隊に入ろうとしたが拒否され、また幾つかの仕事に就こうとするが、コネがないため拒否された。18歳のときには高校を中退して〔大卒と言う情報もあるが誤り。妹の証言〕、本格的に街頭で野菜や果物を売って生計を得ていた〔月に140USドルほどの稼ぎがあった〕。

同市にある「国立雇用・自営業促進局」長官の証言によれば、手押し車での街頭販売には市の許可証は必要でないと言うから〔従ってブアジジが許可証を持って居なかったという情報は誤り〕、販売場所は市の警察官の自由裁量で認められていたと考えられる。つまり営業しようとする者は、警察官に幾ばくかの「上納金 fine」〔労働者の一日の稼ぎ：7USドルほど〕を払って許可される仕組みになっていた。ブアジジは、これまで何度か上納金を警察官に支払えなかったため一輪車を警察官に没収された事があったが、一家の生活が懸かっている以上、辞めるわけにはいかなかった。

9) McAfee (1989年ジョン・マカフィー創立) は、2008年9月 Smart Filter を開発した Secure Computing 社を4・6億ドルで買収している。なお2011年3月半導体大手のインテルがマカフィーを76・8億ドルで買収している（つくば市の東光台にはインテル社の筑波本社がある）。

10) 以下ブアジジ及びその周辺の活動は全て、Wiki “Mohamed Bouazizi” (2011/02/21、2011/08/12、後者加筆あり)、Wiki “Tunisian Revolution” (2011/07/27)。なお文中の「同市にある国立雇用・自営業促進局」長官とは、the head of Sidi Bouzid’s state office for employment and independent work の仮訳である。

2010年12月17日、朝ブアジジが一輪車の店を開くと、男性と女性の警察官がやってきた。婦警〔ファイダ・ハムディ、45歳〕は、亡くなった父の悪口を言い〔20年以上も前に亡くなっているのに：三石注記〕、ブアジジの頬をひっぱたき、唾を吐きかけ、秤を没収し、果物や野菜の一輪車を手荒く道路わきに押しやった。男の警官も彼を殴ったり罵ったりした。公衆の面前での、とりわけ婦警からの暴行はブアジジの忍耐の限度を超えた〔Her gender made his humiliation worse in the Arab World〕。

彼は怒りに燃え、直ちに県庁舎に行き、没収品の秤の返還を直訴すべく県知事に会いたいと訴えた。Connections〔こね〕も money〔かね〕もない彼の訴えはもちろん、「会ってくれないと焼け死んでやる」という彼の悲痛な叫びも、完全に無視された。彼は近くのガスステーションで一缶のガソリンを買って県庁前の大通りに戻り、「私にどうやって生活して行けと言うのか How do you expect me to make a living」と叫び、ガソリンを全身に浴びマッチで火をつけ焼身自殺を図った。時に2011年12月17日午前11時30分のことである。目撃者たちがパニックに襲われ急いで水をかけたりしたので、事態をさらに悪化させたが¹¹⁾、近くの病院に運ばれた。

3. 2 抵抗運動の拡大—親戚友人・弁護士・労働組合

この焼身自殺という衝撃的事件に直ちに反応したのが、ブアジジの一族と友人達、弁護

士達、そして労働組合である。以下この順に述べる。

ブアジジの親類の一人ロシディ・ホルカニ Rochdi Horchani とブアジジの従兄弟のアリー・ブアジジ Ali Bouazizi は、二人とも意識の高い活動家で、ホルカニはシディブジド地方でここ三年間抗議活動してきた経験から「映像 video がなければ、自分たちの活動を人々に知ってもらえない」と確信していた。またアリ・ブアジジも進歩民主党の活動家であった。彼ら親類同士や友人たちは、互いにソーシャル・メディアを使ってシディブジド市のニュースや国際メディアと接触していた。二人は、自分たちの蜂起 uprising が人々に知らされることなく黙殺されてしまわないようにと、厳重な検閲と厳しい警察の取締りの恐怖に打ち勝った¹²⁾。

かくして二人は、12月17日の午後、ブアジジの母親を先頭に県庁舎前で平和的に抗議デモする映像を投稿した。他方アルジャジーラのニュースメディアの面々は、ニュース画像を求めてアラブ世界中のウェブを駆け巡って trawl いたが、彼らは17日の夕刻には、その映像をフェイスブックで見つけた。こうして、上に述べた画像がアルジャジーラの「衛星TV」ムバシエル・チャンネル¹³⁾で放映され、多くの者が知ることになった。この二人の勇気ある投稿がベン・アリー体制下における厳しい情報管制を打ち破るきっかけとなった。

チュニジアの法曹界がなぜ先鋭化したのであるか。彼らはもともと高い知的水準と正

11) 近くの病院に運ばれたが重症で治療不可、110km離れた海岸の町スファックスの病院に運ばれた。90%の火傷で昏睡状態、更に12月28日までは首都チュニスの病院に運ばれ(28日大統領見舞いに。病室での写真あり)、2011年1月4日5時半、意識が戻らぬまま死亡。Mohamed Bouazizi で検索すると火達磨になったブアジジの映像などが出てくる。

12) この前後及び以下の記述は全て下記の記事による。“Al Jazeera English”, ‘How Tunisia’s revolution began-Features’, 26 Jan 2011 by Yasmine Ryan.

13) アルジャジーラ Al Jazeera. カタールのドーハに本拠地を置く、アラビア語・英語で24時間ニュースなどを放送している衛星テレビ局。1996年11月1日カタール政府の支援で開局。ムバシエル・チャンネルは同社の開局している7chの内の一つで、アラビア語ライブTV中継のチャンネルである。会議や群衆デモ等をコメント無しでライブ(mubasher)で放送(以上Wikiアルジャジーラ)。客観的かつ詳細な報道で信頼度は極めて高い。

義感を持ち、ベン・アリー体制に批判的であった。そこに優れた組織者が現れた。シディブジドの弁護士 local lawyer、ダフェル・サリ Dhafer Salhi は、12月17日、偶然にプアジジ青年が焼身自殺するのを目撃した。彼は駆けつけた警官の責任者に言った。「大通りに集まった人たちの怒りを静めたいのなら、今日のうちに責任者のあなたがこの若者の家族に会うことです。そうしないとこの国に火がつかますよ」。サリの言葉によれば、「責任者は傲岸な態度で、事態〔の深刻さ〕もわからずに、私のこの要求を拒否した」。

警察官の無責任さに完全に失望したこの弁護士は、積極的な抵抗への参加者となり、フェイスブックを使って、友人達に声をかけ抵抗者達の組織化を始めたのである〔チュニジアの全弁護士約7千人の95%がサリ弁護士に呼応して反体制派となった〕。チュニジア蜂起の始まりから勝利まで、チュニジアの抗議運動への参加者 protesters 達は、フェイスブックを使って互いに連絡を取り合った。フェイスブックは、映像共有の他の多くのサイトと違って、チュニジア政府のオンライン検閲網に含まれていなかったのである¹⁴⁾。

最後はチュニジアの労働組合の役割である。2011年12月17日、青年の焼身自殺から突如、全く自然発生的に勃発した市民の抵抗・蜂起 uprising は、武器なき・平和的なデモ行進の闘争形態を取り、極めて洗練された組織化が見られた。この卓越した戦術を一体誰が指導したのだろうか。アルジャジーラの記者たちは、シディブジド市の高校の物理の先生に取材して、労働組合の指導力があつたものと見た。高校の教師アフィ・フェティ Affi Fethi は言う「抵抗者たちの背後にある主要な

推進力は、強力なシディブジド労組である」と。この先生はまた「マンゼル・ブゼアース〔12月24日、三人が射殺された〕など近くの町で警察官が抗議者達を射殺した時、蜂起は国家的規模に拡大した」と。

もともとチュニジアの労働組合「Tunisian General Labour Union (UGTT は仏語略記) チュニジア総労働組合連合 (仮訳)」は、一般的に支配体制から政治的に独立していないと見なされているけれども、各地区代表はその勇氣ある行動で高い名声を得ていた。特にシディブジドの町の労組は積極的で知られていた。シディブジドの人達は、この地域が惨めな極貧生活を送る見捨てられた地域であると感じており、この蜂起には学生も、教師達も、失業者達も、弁護士達もみな、逮捕と拷問とをものともせず、戦列に参加した。デモに参加した学生は「この度の蜂起は自由と雇用だ」とインタビューに答えていた。

4. チュニジア革命—ジーン・シャープの非暴力行動論。

4. 1 ジーン・シャープ理論とチュニジア革命との関連性

ジーン・シャープの提唱する非暴力闘争 nonviolent struggle 論が、冷戦終焉前後から、突如、世界的な注目を浴びるようになった。一例として、“ヴォルテール Voltaire” 誌〔国際版〕、2005年1月4日号登載の、フランス人作家にしてジャーナリストの、ティエリー・メイサン Thierry Meyssan による「ソフトな非合法クーデター アルバート・アインシュタイン・インスティテューション:CIA とともに非暴力」なる記事¹⁵⁾ は、ジーン・シャープとその

14) “Al Jazeera English” ‘How Tunisia’s revolution began – Features, 26 Jan 2011 by Y. Ryan. なお “Al Jazeera net”01/06/2011 Tunisia’s bitter cyberwar は、Facebook も削除と言う。

15) 田中宇「イラク化しかねないミャンマー」(2007年10月23日)の「関連記事」からも検索可。Voltaire Network 4 Jan. 2005: ‘Soft and Undercover Coups d’État The Albert Einstein Institution: non-violence according to the CIA’, by Thierry Meyssan.

AEIの活動について、誤解に満ちた文章を書いている。記事によれば、ジーン・シャープは、1980年代にはNATOの、そしてここ15年来(つまり1990年以来-三石)CIAの、「ソフトなクーデター soft coups」の指導者たちの養成訓練を助けてきた。1983年にはシャープはボストンにAEIを創立、その目的は研究資金の獲得とその非暴力技術の現実への適用とであった、と述べて、以下、シャープの関与したとする非暴力運動の具体的事例を、延々と列挙している。

ジーン・シャープの名前が再び浮上するのは、2011年1月以降、チュニジア、エジプト、リビア、果ては中国へと波及して行った「アラブの春」の理論的指導者としてである。シャープとエジプト革命との関係については多くの資料があるが、チュニジア革命とシャープ理論との関係を示すのは、私の調査では次の『ニューヨークタイムズ』の記事しか発見できなかった。すなわち、

“Shy U.S. intellectual created playbook used in a revolution シャイな米国知識人が革命で使われた脚本を作った”¹⁶⁾ は、アメリカの政治学者ジーン・シャープ博士の非暴力闘争論が、この度のチュニジア、エジプト革命に大きな影響を与えた、と言う分析を乗せている。すなわち、Few Americans have heard of Mr. Sharp. But for decades, his practical writings on nonviolent revolution — most notably “From Dictatorship to Democracy”, a 93-page guide to toppling autocrats, available for download in 24 languages — have inspired dissidents around the world, including in Burma, Bosnia, Estonia and Zimbabwe, and now Tunisia and Egypt. [訳：ほとんどのアメリカ人はシャープ氏の事を聞いた事がないだろう。しかし氏はここ数十年間(主著“The Politics of Nonviolent Ac-

tion” 1973、博士論文、900頁からすれば、38年間)、氏の非暴力革命に関する実践的な著作の数々—そのうちで最も著名な『独裁制から民主制へ(1993年初版)』、この書は僅か93頁の独裁者打倒のガイドブックで、24ヶ国語でダウンロードして利用できる—は、ビルマ、ボスニア、エストニア、ジンバブエ、そして今現在チュニジアとエジプトで、要するに世界中の異議申立者達に勇気を与えている]。原文を示さないが、NYTは続けて、

民主主義活動家を訓練する「非暴力闘争の国際センター[シャープ博士の教え子 Peter Ackerman 達が作った](三石注記)が、数年前カイロに密かに潜入して勉強会を行った時、その時配布された資料の中にシャープ氏の、「ハンガー・ストライキ」から「礼服を脱ぎ捨てる」、「諜報員の身分をばらす」と言った戦術のリスト「198の非暴力行動の手法」があった。テリア・ジアダは、エジプト人プロガーであり活動家であって、上記の勉強会に出席し、そのあと同じような会合 sessions を自分の手で立ち上げた。彼女がいう事には、その勉強会で訓練を受けた人たちはこの度のチュニジアとエジプトの蜂起で積極的であったこと、ある活動家はシャープ氏の作品の抄録をアラビア語に翻訳しましたこと、またシャープ氏の「独裁者の弱点を攻撃せよ」というメッセージは、彼らの脳裏を離れなかったと言う。

以上 NYT の記事は、ジーン・シャープのもっとも有名な『独裁制から民主制へ(1993年初版)』が、チュニジアの革命に影響を与えていること、および「非暴力闘争国際センター」がカイロでひそかに勉強会を開いたとき、エジプト人もチュニジア人の若者も参加し、G・シャープの「198 Method of Nonviolent Conflict 非暴力行動の198の手法」を勉強会の

16) “The New York Times” Feb 16 2011. ‘Shy U.S. intellectual created playbook used in a revolution’ By Sheryl G. Stolberg.

教材として使ったこと、この勉強会参加者たちがこの度の両国の革命で活躍したことを伝えている。つまりこのNYTの報道は、チュニジアの革命はG・シャープの非暴力革命論『独裁制から民主制へ』と具体的な「198の戦術」とに依拠しつつ実行された可能性のあることを示唆している〔しかし我々はまだこの事実を示す別の資料を発見できないでいる〕。

4. 2 労働組合による合法的闘争

この度のチュニジア革命の第一の特色は、サラフィー主義〔サラフ（父祖：預言者とその教友）時代への回帰〕者達と言った既成団体や組織ではなくて、労働組合が運動の全体的な指導権を持ち、若者達、失業者達、弁護士達、教師達がそれぞれ創意を凝らして独自の戦術で全体に合流した。その闘争の大きな方向性は、労働組合として取りうる合法的な・非暴力的なさまざまな闘争手段が採られたことであって、武器携帯への誘惑を断固拒否し、かつ暴力への衝動を厳しく抑制した点にある。しかもその対応は極めて迅速であって、ある資料は「変革 change への呼びかけに、強力な力を持つ市民社会の組織、チュニジア唯一の労働組合 UGTT が、素早く呼応した」¹⁷⁾と指摘している。

チュニジア労働組合の果たした役割について、以下、ダヴィッドソン・カレッジ (N.C) のクリストファー・アレクサンダー Christopher Alexander 准教授の分析である (2011年1月2日執筆)。

労働組合の役割は〔2010年〕12月抵抗の最も顕著な様相の一つである。政府は1990年代において多大の努力を払って、しかも成功裏に、チュニジア唯一の労働組合連合 UGTT を飼い慣らしてきた。しかしながら最近では、か

なりの組合の活動家達がもっと独立的で対決的な立場を採るのに成功した。- UGTT の中でも最も独立的で攻撃的な教員組合は、雇用促進に政府は失敗した、政府は腐敗している、政府は重要な対話参加すら拒否していると抗議して、ほとんどが学位を持っているが失業している労働者たちを組織化するのに決定的に重要な役割をはたした。人権擁護団体、ジャーナリスト、弁護士、野党は、そのとき、共に、政府が抗議者達の報道取材を制限していること、デモ参加者を逮捕し、かつ拷問にかけている事に反対する運動、に加わった。こうして、広範な市民社会の諸組織の連合は、生活の手段としての雇用のない不満を、基本的な人権と法の支配とに関わる事柄として結びつけた。彼らはまた、階級も地域の違いをも超えて、モナスティア、スファックス、チュニスなどの弁護士やジャーナリストなどと、またシディブジド、マンゼル・ブゼアーヌ、レーゲブの若い無職の人達など、共に戦う支援団体を一つに纏め上げた¹⁸⁾。

ここでは労働組合の指導的役割がきちんと分析されている。しかしここにはシャープの非暴力革命論の影響関係は全く言及されていない。なぜだろうか。

BBC NEWS の伝えるエジプトの話であるが、デモ参加者の一人が、ジーン・シャープによる非暴力闘争の198の方法を示したコピーを示しながら「この中の沢山の方法がこのエジプトで実行された」と誇らしげに語った。記者が「その非暴力の武器はアメリカの学者が書いたものだ」と言うと、このデモ参加者は「これはエジプトの革命だ。アメリカ人にどうこうせよと教えて貰おうとは思わない」と答えたと言う¹⁹⁾。チュニジアでも同

17) 'The Inside Story of How Facebook Responded to Tunisian Hacks' By Alexis Madrigal, Jan 24 2011. theatlantic. com. UGTT1946年創立、組合員51・7万人。Wiki Tunisian Rev. も参照。労組の役割を重視している。

18) 'Tunisia's protest wave: where it comes from and what it means' Jan 3, 2011, by Christopher Alexander, foreignpolicy. com.

19) BBC NEWS 21 Feb. 2011. 'Gene Sharp: Author of the nonviolent revolution rulebook'

じように、ジーン・シャープの影響を受けた若者達も「[悪評の高いアメリカの影響を] 公言できなかった」、したがって彼らの非暴力的行動も労働組合の戦術の中に没して表面には現れなかったとも考えられる。

4. 3 フェイスブック革命と非暴力的革命

チュニジア革命〔2010/12/17～2011/01/14の29日間〕の第一の特色として労働組合の役割を挙げた。次にチュニジア革命の第二の特色は、その情報伝達的手段としてフェイスブックやツイッターと言った新しい情報通信手段が用いられたことである。ブアジジ焼身自殺をいち早くネットに載せ、シディブジド市での闘争の口火を切ったロシディ・ホルカニによれば、シディブジドの前衛的な人たちは、「**a rock in one hand, a cell phone in the other**片手に石を、片手に携帯を持って」街頭に飛び出していったという²⁰⁾。弁護士たちもフェイスブックを使って連絡連帯し、市民的抵抗の一翼を担った。若者たちはチュニジア革命そのものを「フェイスブック革命」と呼ぶべきだと主張していた。

『アルジャジーラ NET』は2011年1月6日の時点²¹⁾で、次のように報道している。「その戦いはその国の街頭ばかりではなく、インターネット・フォーラム、ブログ、フェイスブックの頁で、ツイッターの送信で起こっている。チュニジアの当局はすでに「詐欺 phishing」作戦 operations をずっと行ってきて狙いを定め、ユーザーのパスワードを盗んでスパイし、オンラインでの批判を完全に封じて eradicate きた」と言う。

しかしながら、1995年頃以降、「フェイスブック、ツイッターやチュニジア人のブログ空

間が拡大すると一多くが国外に基地があった一、次第しだいにチュニジア人が、最新の逮捕・暴行の事件、あるいは大統領ファミリーによる違法の商取引等について知ることが容易になっていった」²²⁾。労働組合はベン・アリー政権の腐敗・抑圧・弾圧の実態を知りにいたった若者たちの怒りを、ベン・アリー政権打倒へと結集して行ったのである。

チュニジア革命の第三の特色は、その運動の非暴力性である。ブアジジの焼身自殺、その平和的な追悼デモ、各都市における平和的なデモ、都市から都市へ、あるいは地方都市から首都までの巡礼の宣伝行進²³⁾、弁護士や教師のストライキと言った合法的な手段が用いられたことである。もちろん投石、タイヤに放火、警察車への放火、ときに警察署への放火、腐敗せる大統領一族の家産の略奪、と言った「暴力的」行為も見られたが、ほとんどが「武器なき・平和的闘争」に徹している点に大きな特色がある。この革命の手段・方法から見る限り、ジーン・シャープの「**nonviolent action** 非暴力行動」論に依拠しているとも言えるが、労働組合の戦術としての合法的闘争手段をとったとも言い得る訳で、我々はまだシャープ理論の影響を証拠立てる資料をここチュニジアでは発見できないでいる。

5. nonviolent action・アラブの春の立役者

5. 1 ジーン・シャープについて²⁴⁾

1928年〔1月28日〕、オハイオ州生まれ。1949年オハイオ州立大学（社会学専攻）卒。1951年同大修士社会学修了。1953年から54年

20) "Al Jazeera English", 'How Tunisia's revolution began - Features', 26 Jan 2011 by Yasmine Ryan.

21) ALJAZEERA.NET, Tunisia's bitter cyberwar, 06 Jan 2011.

22) 'Tunisia's protest wave: where it comes from and what it means' Jan 3, 2011, by Christopher Alexander, foreignpolicy.com.

23) ALJAZEERA.NET, Tunisia cabinet to be reshuffled. 24 Jan. 2011 (liberation caravan).

24) 『武器なき民衆の抵抗』の「訳者あとがき」、Wiki; Gene Sharp など。

にかけて、朝鮮戦争のとき徴兵を拒否して市民的不服従の立場を貫いたため、9ヶ月10日間投獄され、その間故アインシュタイン博士から激励を受けた。1955年から58年の二年半ロンドンで「ピース・ニュース」の副編集長、その後オスロの社会調査研究所で非暴力行動の研究、およびオスロ大学の思想史の副講師。1965年以降ハーヴァード大学国際問題センターの研究者。1968年オクスフォード大学で政治理論に関して哲学博士の学位をとっている。1968年にはイーストボストンに現在の家を買った。ボストンでよく見かける二階建ての所謂「townhouse:rowhouse 西洋長屋」で、当時のお金で150ドル〔プラス back taxes = 追徴課税：恐らく1年か半年分の税金か〕かかった。一階が Albert Einstein Institution AEI の事務所兼書斎、二階が寝室、屋上に珍種のランを栽培している。1972年マサチューセッツ大学〔ボストンに本部、5校からなる州立大学〕・ダートマス校の政治学教授〔現名誉教授〕、1983年 AEI 創立。代表的な著作：

“Gandhi Wields the Weapon of Moral Power” (1960) [アインシュタインの序文あり]。

“Exploring Nonviolent Alternative” (1970) [『武器なき民衆の抵抗 その戦略的アプローチ』小松茂夫訳、れんが書房新社1972年4月]。

“The Politics of Nonviolent Action” (1973) [博士論文。900頁の膨大な著作]。

“From Dictatorship to Democracy” (1993)。

5.2 ジーン・シャープによる nonviolent action の定義

定義²⁵⁾：「市民的防衛〔非暴力行動による国防〕のことである〕は、敵が自分たちの国に侵略してきても、政治的支配を確立してそれを維持

することが出来ないようにするため、市民大衆が一丸となって抵抗運動を行い、そうした抵抗を通じて軍事的侵略を敗北へと導いていくことである (96頁)。

「市民的防衛」の基本的考え方は、「政治的柔術 political jiu-jitsu」、つまり「相手のバランスを政治的に失わせ、敵対者を投げ倒す (73頁)」こと、「敵が住民に対し支配を行おうとする限り不可欠となる、人々の支持と協力を敵に対して拒否する (66頁)」ことである。

この具体的手段・方法は、以下の手段を通じて、占領者を孤立させ、行政を不可能にし、その道徳的威信を失墜させ、その権力を弱め、解体させる。

(a) 非暴力的抗議 nonviolent protest。

これは象徴的な不承認の意思表示の行動であって次の手段を含む〔54通りと²⁶⁾〕いう。その主要なものは、すなわち、①行進〔整然たる示威行進あるいは所謂日本全学連のジグザグ・デモなど〕。②長期間にわたる行進〔原文は pilgrimages で、首都あるいは聖地までの、大群衆による、長い期間にわたる示威運動としての巡礼〕。③ピケ〔picket。敵あるいは裏切り者を警戒するために見張りを配置する〕。④監視〔敵が何をするか、何をしようとしているか、人々が監視することである。非道な行為があればただちに公表されよう〕。⑤官吏にたいする「つきまとい」〔これも監視の一つである〕。⑥公的な集会〔規模はさまざまであろうが、公然たる反対集会〕。⑦説得〔言葉によって、敵・相手を説き伏せようとする言論をもつての戦いである〕。⑧プロテストのための文書の印刷・配布。⑨プロテストのための移住〔傀儡政権あるいは敵

25) ジーン・シャープ『武器なき民衆の抵抗 Exploring Nonviolent Alternative』小松茂夫訳、れんが書房新社、1972、201頁以下。原書初版1970。

26) Gene Sharp “The Politics of Nonviolent Action (Porter Sergeant Publisher, Boston, USA, 1973) の119～172頁に54の方法を詳述している。

に仕えないためである]。⑩ユーモアないた
ずら〔迷子になるように町名標識を取り去っ
てしまったり、闘争スローガンをシャツに書
いて着たり、ワッペンを胸や鞆につけたりす
る〕。

(b) 非暴力的非協力 **nonviolent non-coop-
eration**。

64通りあり²⁷⁾、次の3つのカテゴリーに
分けられる。それぞれの典型的なものをあげ
る。①社会的非協力=社会的ボイコット〔傀儡
政権に奉仕するものを村八分にする〕。②
経済的非協力〔ボイコットとストライキ〕。
＜ボイコット＞消費者の行うボイコット。販
売者の行うボイコット。賃貸料の納付拒否。
国際的な通商停止。＜ストライキ＞にはゼネ
スト。辞職スト。産業スト。スローダウン戦術。
操業停止など。③政治的非協力；傀儡政府機
関への就職のボイコット。選挙のボイコット。
行政に関する非協力。市民的不服従。官権に
対する反抗。

(c) 武器なき介入 **nonviolent intervention**。

40通りあり、その主なものは、座り込み。
断食。逆スト。武器なき妨害。武器なき占拠
あるいは侵入。第2政府の樹立〔いわゆる「陰
の内閣」を作る〕である。

ここで〔1973年初版本〕挙げられている抵
抗・抗議の方法は、全部で158の手段である。
現在ではこれが198になっており、40の手段
が増加されている。

ジーン・シャープは、日本人ジャーナリス
ト松村保孝のインタビューをうけて、「チュ

ニジアやエジプトにおける民主化運動は、ア
ルカイダの自爆テロなどによる武装闘争路線
とはまるで違う手法であり、そして市民はそ
の方法こそ、より良い選択肢だとして支持し
た。今後、非暴力的な行動が成功する限り、
アルカイダの影響力はどんどん減っていくで
しょう」と語っている²⁸⁾。

G・シャープの **nonviolent action** の真髄は、
「武器を持ちたいという誘惑」を断固退ける
ところにある。そのためには長い周到な準備
が必要であり、「エジプトのホスニ・ムバラ
ク大統領を打ち倒した抵抗は、決して自然発
生的 **spontaneous** なものではなかった。そこ
には何週間、何ヶ月、いや何年もの準備期間
があった²⁹⁾」。

独裁的な政府を倒す運動の成功の鍵は、反
体制側が「公務員・警察・軍人の体制への忠
誠心を弱めることが出来るか、中立者を説得
して反体制派に加えることが出来るか、市民
たちの抗議に対して、権力側の暴虐な暴力的
な対抗手段を発動させないように出来るか、
あるいは仮令発動されたとしても非暴力運動
の戦略的な作戦計画を危うくする事がないよ
うに出来るか」に懸かっている³⁰⁾。

一般的に政治的支配が可能になるのは、「下
からの」膨大な数の、市民・国民の何らかの
協力・支持がなくば、支配そのものが成り立
ち難い。永続的に、赤裸々な「力」だけで「強
制的」な支配を継続して行こうとすれば、必
ずや被支配者の「反抗」を招くに至る。「専
制的独裁的圧政」は、実はコストがかかり過
ぎて、割に合わないのである。シャープは「非
暴力行動」によって独裁権力が崩壊していく
状況を、台座を失った巨大な石像が自身の重

27) Sharp (1973)、183～347頁。および「武器なき介入」は、同書357～433頁参照。

28) 松村保孝「ジャスミン革命 中東を揺るがす一人の男 独裁打倒のデモ現場で読まれている指導書、その著者とは」：「経
済の死角」gendai.ismedia.jp .2011年3月22日（火）〔週刊現代〕。〔松村保孝で検索。松村氏のインタビューはシャープ
理論の本質と進行している非暴力革命についてのシャープの所感を引き出した見事な記事となっている〕。

29) National Public Radio(npr.org), 'Founder of Egypt's April 6 Movement Weighs in' Feb.14 2011.

30) thenation.com 'Gene Sharp, Nonviolent Warrior' By Sasha Abramsky, Mar. 16 2011.

さによって損壊しつつ次第に大地に呑み込まれていく例に譬えた。台座とは言うまでもなく市民・国民であって、国民の支持を失った支配者の末路を、「非暴力行動」の勝利を、鮮やかなイメージで活写した³¹⁾。シャープは「Machiabelli of Non-violence 非暴力の

マキアベリ」とか「Clausewitz of nonviolent warfare 非暴力闘争のクラウゼウイツ」とも呼ばれており³²⁾、すでに述べたように2009年と2011年のノーベル平和賞の候補に挙げられた。(了)

31) Gene Sharp “The Political Equivalent of War – Civilian Defense” N・Y, 1965, p24.

32) Harvard Law School(law.harvard.edu) ‘At HLS, Gene Sharp offers insights on nonviolent struggle’